

8月の果実の見通し

令和2年7月31日現在
山形県東京事務所

区分 品目	主産地	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		販売見通し
		前年実績	前年比 見込 (%)	5カ年 平均	前年実績	前年比 見込	5カ年 平均	前年 入荷量 (t)	前年 占有率 (%)	
日本なし類	千葉 茨城 福岡	7506	90%	8147	380	高い	356	1	0.0%	ハウス物はほぼ終了し、10kg箱の販売は7月24日から福岡県産、25日から佐賀県産がスタート。 「幸水」は、連休明け(7月27日)から千葉県産(長生)の販売が始まり、茨城県産等が続く。8月20日頃から福島県産が始まる。計画出荷数量は前年と比較して少ないが、ピークは前年同様8月上旬。 「豊水」は、8月下旬から福岡、千葉、茨城県産の販売が始まる。若干小玉傾向。 「二十世紀」は、鳥取県産ハウス物が旧盆前に2、3回の販売となる。
もも類	福島 山梨	5345	90%	※	519	高い	※	531	9.9%	山梨県産は8月上旬まで少ない。7月下旬に「浅間白桃」から「なつつこ」へ切り替わり、月末まで販売。8月上旬に「川中島白桃」の出荷が本格化する。 福島県産は、7月24日頃に主力の「あかつき」が始まり、8月初めからピークに入る。8月上旬に「まどか」がスタートする。 山形県産「あかつき」は、8月に入ってから出荷開始。 数量は前年と比較して同じ～多くなる見込み。
すもも	山梨 長野 山形 など	528	90%	※	618	高い～平 年並み	※	109	20.6%	8月の販売の主力は「太陽」。8月上旬～下旬は山梨県産が中心、下旬から山形県、長野県産も始まる。 山形、長野、福島県産は「ソルダム」中心の販売だが、ここ数年「サマーエンジェル」の出荷量が増えている。 「貴陽」は8月10日～20日頃まで潤沢出荷が続き、下旬は減少していく。
りんご類	長野 山形 など	2114	100%	2395	409	高い～平 年並み	389	262	12.4%	2020年産新りんごは、7月下旬から長野県産「夏あかり」、8月始めから山梨県産、中旬から長野県産「シナノリップス」「サンつがる」、岩手県産「紅口マン」と、順次販売が開始する。作柄は全体的に平年並みと順調。青森県産貯蔵品は、平年より大幅に少なく、旧盆前までは高値基調で推移する。 8月下旬には新りんごの出荷が本格化し、相場は弱含みで展開する。

8月の果実の見通し

令和2年7月31日現在
山形県東京事務所

区分 品目	主産地	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		販売見通し
		前年実績	前年比 見込 (%)	5か年 平均	前年実績	前年比 見込	5か年 平均	前年 入荷量 (t)	前年 占有率 (%)	
ぶどう類	山梨 長野 など	2862	100%	3456	1250	高い～平 年並み	1027	742	25.9%	山形県産「デラウェア」は、7月最終週に加温ものから無加温物へ切り替わり、旧盆に向けて出荷数量は増加する。 「巨峰」は、山梨県産は前年より早い7月16日から販売開始。8月初旬から数量がまとまり、旧盆に向けてさらに増加する。長野県産も8月に入って一段と増加する。 岡山県産「ピオーネ」は、7月末で加温物が終了し、8月初旬から無加温物が開始する。 「シャインマスカット」と同様に出荷量は平年並み。
メロン類	北海道 静岡 など	1946	95%	2159	455	高い～平 年並み	447	292	15.0%	山形県産は7月いっぱいではほぼ終了し、8月は北海道、青森県産が中心となる。 北海道産はトンネル物の生育が遅れた。赤肉系は8月に入ってから増加。青肉系は7月下旬から開始するが、8月20日以降から増加する。 青森県産も7月の出荷量は少なく、8月に入ってから増加し、旧盆まで順調に出荷。 アールスメロンは、7月の曇雨天で下位等級品の比率が前年より大幅に高まる。
すいか(大玉)	山形 長野 など	8977	105%	※	173	高い	※	5453	60.7%	7月中旬から梅雨寒が続き、販売苦戦。 長野、山形県産は7月下旬から8月上旬にかけて出荷ピークを迎え、旧盆明けからはダラダラ出荷となる。 山形県産は2L中心、長野県産は3L中心で出回る。

引用資料:「東京都中央卸売市場における果実の品目別取扱実績」(青果物情報センター)、果実の入荷・市況見通しについて(東京青果株式会社)

入荷量について:「0」はラウンドして1tに満たない入荷があったもの。「-」は本県のデータがないもの(入荷がないか、又は少なかったためにその他の産地に含まれる)

※5か年のデータがないため空欄